

鳥飼まちづくりグランドデザイン説明会

④田園(農業とのふれあい)エリア



② 居住性向上エリアB



田園(農業とのふれあい)エリア、居住性向上エリアB

2回目

令和6（2024）年6月16日

本日の内容

1. 鳥飼まちづくりグラウンドデザインについて
2. 前回の説明会で頂いたご意見の紹介
3. 小学校跡地活用 of 事例紹介
4. 今後の進め方等について

本日の内容

1. 鳥飼まちづくりグラウンドデザインについて
2. 前回の説明会で頂いたご意見の紹介
3. 小学校跡地活用 of 事例紹介
4. 今後の進め方等について

鳥飼まちづくりグランドデザインについて

1 鳥飼まちづくりグランドデザインの考え方

地域の課題

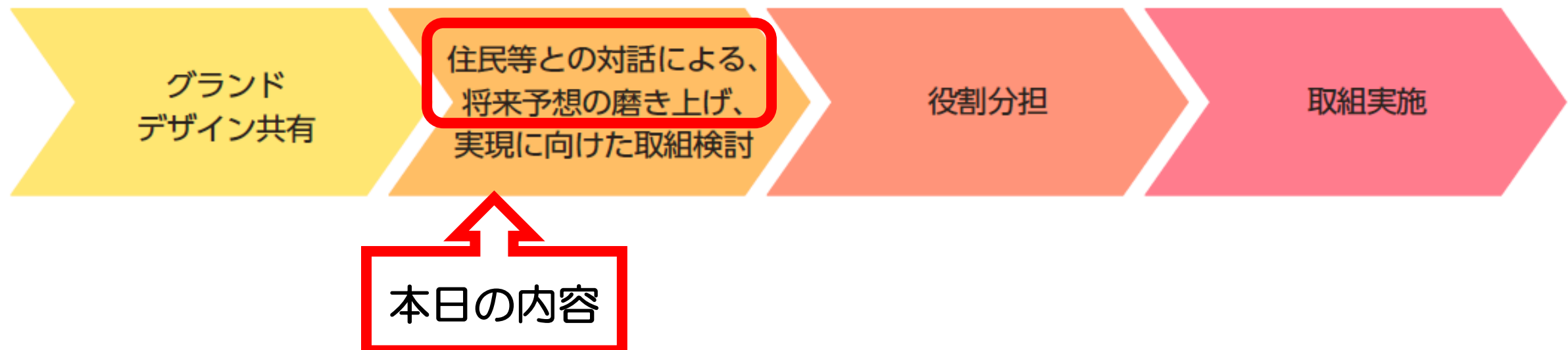
自然災害、公共施設の老朽化
少子高齢化の進展、人口流出、地域コミュニティの希薄化

目指す姿

住民の生命と身体を守る「**危機管理（防災）**」の観点を軸
誰もが「安全・安心」に過ごし、
「にぎわい」と「暮らしやすさ」が調和したまち

鳥飼まちづくりグランドデザインの策定

2 鳥飼まちづくりグランドデザインの進め方



鳥飼まちづくりグランドデザインについて

④田園(農業とのふれあい)エリア 将来予想・現状と課題・課題解決に向けた取組の方向性

④田園（農業とのふれあい）エリア



鳥飼まちづくりグランドデザインについて

④田園(農業とのふれあい)エリア 将来予想・現状と課題・課題解決に向けた取組の方向性

説明会当日資料（鳥飼まちづくりグランドデザイン）P56

【将来予想】

- ・近郊からのアクセス性の良さから、多くの人が、田植えや稲刈りなどの農業体験に訪れます。

【現状と課題】

説明会当日資料（鳥飼まちづくりグランドデザイン）P58

- ・府道茨木寝屋川線や府道八尾茨木線といった幹線道路へのアクセスは確保されているため、自然環境を活用した人を呼び込むための活動が必要です。

【課題解決に向けた取組の方向性】

説明会当日資料（鳥飼まちづくりグランドデザイン）P59

(1)隣接エリアからの移動を含め人を呼び込むための道路整備に取り組みます

＜取組イメージ＞

◎誰もが移動しやすい環境づくり

- ・人を呼び込むポイントを選定し、そこまでのアクセス方法についての検討

鳥飼まちづくりグランドデザインについて

④田園(農業とのふれあい)エリア 将来予想・現状と課題・課題解決に向けた取組の方向性

【将来予想】

- 子どもなどが付近を走行する新幹線を見ながら、豊かな自然に触れ、楽しく農作業を体験できるなど、子育て世代の人気スポットです。

【現状と課題】

- エリアを東西に走る生活道路は、府道鳥飼八丁富田線への抜け道として利用されており、平均的に走行速度が高いため、居住者等の安全確保が課題です。

説明会当日資料（鳥飼まちづくりグランドデザイン）P58

【課題解決に向けた取組の方向性】

- (2) 地域住民の生活の安全確保のため、歩行者等にも安全な生活道路の整備に取り組みます

説明会当日資料（鳥飼まちづくりグランドデザイン）P59

＜取組イメージ＞

◎誰もが移動しやすい環境づくり

- 生活道路の交通安全対策
- 歩行者の安全確保に配慮した歩車共存道路等の整備の検討

鳥飼まちづくりグランドデザインについて

④田園(農業とのふれあい)エリア 将来予想・現状と課題・課題解決に向けた取組の方向性

【将来予想】

- ・農閑期には、空いた農地を活用して文化芸術活動が活発に展開されています。

【現状と課題】

説明会当日資料（鳥飼まちづくりグランドデザイン）P58

- ・エリアにある農地では、農業者の高齢化や後継者不足などの課題はあるものの、代掻き前の水田にレンゲソウを植栽するなど春先における景観形成に取り組む農業者も一部見られますが、エリア一体となった農閑期を含めた水田の活用方法などについて検討を進めていく必要があります。

【課題解決に向けた取組の方向性】

説明会当日資料（鳥飼まちづくりグランドデザイン）P59

(3)賑わいの創出に向け農閑期の水田の活用を支援します。

＜取組イメージ＞

◎地域資源を活かしたにぎわい・魅力あふれる環境づくり

- ・田んぼや畑などの自然環境を活かしたイベントの検討
- ・オープンスペースを活用したマルシェ等の検討
- ・公衆Wi-Fiの整備
- ・青少年や次世代アーティストを呼び込む文化芸術環境創出手法の検討

鳥飼まちづくりグランドデザインについて

④田園(農業とのふれあい)エリア 将来予想・現状と課題・課題解決に向けた取組の方向性

【将来予想】

- ・隣接エリアでは、新鮮な農作物を購入することができ、本市特産品の「鳥飼なす」は、市内外の小売店舗でも広く扱われるようになっていきます。
- ・住民は自家用車で円滑に広域避難し、自家用車を持たない住民や避難行動要支援者は、農業者や農業体験者の協力を得て、安全な地域に移動し、生命と身体の安全が確保されています。

【現状と課題】

説明会当日資料（鳥飼まちづくりグランドデザイン）P58

- ・隣接エリアとの間には東海道新幹線が走っており、エリア間の住民の交流等も図りづらい状況です。
- ・自家用車があれば広域避難が可能ですが、避難行動要支援者等に対しては、関係者の協力も含めて、安全な避難の確保に向けた検討が必要です。

【課題解決に向けた取組の方向性】

説明会当日資料（鳥飼まちづくりグランドデザイン）P59

(4)「農」を通じた交流やつながりを形成する具体的な取組を支援します。

＜取組イメージ＞

◎つながってみんなが活躍できる環境づくり

- ・農業を通じた避難行動要支援者をはじめとする地域住民との交流促進
- ・エリア内の農道や水路の整備など農地の利便性を向上

鳥飼まちづくりグランドデザインについて

④田園(農業とのふれあい)エリア 将来予想・現状と課題・課題解決に向けた取組の方向性

【将来予想】

- ・農地の広大なスペースは、地震災害時には一時避難場所となるだけでなく、農家の協力により応急仮設住宅の建築資材置き場など災害復旧に必要となるバックヤードとして活用されるなど、新たな側面からも農地が活用されています。

【現状と課題】

説明会当日資料（鳥飼まちづくりグランドデザイン）P58

- ・水害リスクを踏まえた水田の活用について検討を進めていく必要があります。

【課題解決に向けた取組の方向性】

説明会当日資料（鳥飼まちづくりグランドデザイン）P59

(5) 災害時の農地の活用について検討します。

＜取組イメージ＞

- ◎自助 共助 公助(みんな)でつくる安全安心
 - ・農地の災害時の活用方法について検討

鳥飼まちづくりグランドデザインについて

④田園(農業とのふれあい)エリア 将来予想・現状と課題・課題解決に向けた取組の方向性

【将来予想】

- これまでの「農」が安定的に継続されるだけでなく、観光や防災などの新たな価値が付加され、鳥飼の「農」が注目されています。
- 多様化する生活課題の解決に向け、平時からの見守りなどの地域福祉活動が展開されています。

【現状と課題】

説明会当日資料（鳥飼まちづくりグランドデザイン）P58

- 農業の担い手の確保、持続可能な農業、防災や地域福祉などの様々な生活課題を解決するために必要な地域のつながりを確保する場や組織の強化等が必要です。

【課題解決に向けた取組の方向性】

説明会当日資料（鳥飼まちづくりグランドデザイン）P59

(6) 改めて「農」の価値を見出し、魅力を発信し、都市近郊の農業としての発展における公的支援の可能性について検討します。

＜取組イメージ＞

◎地域資源を活かしたにぎわい・魅力あふれる環境づくり

- 農地中間管理事業の活用による農業者の確保
- 様々な機会を活用した情報発信等
- 付加価値の高い貴重な農空間を残すため、農業を継続できる農地の集積・集約化

鳥飼まちづくりグランドデザインについて

②居住性向上エリアB 将来予想・現況と課題・課題解決に向けた取組の方向性

② 居住性向上エリアB



鳥飼まちづくりグランドデザインについて

②居住性向上エリアB 将来予想・現状と課題・課題解決に向けた取組の方向性

【将来予想】

- ・住民は家庭菜園など余暇を楽しみながら落ち着いた生活をしています。
- ・隣接エリアとの交流も盛んな「農」を通じたコミュニティが形成されています。

【現状と課題】

- ・隣接エリアとの間に東海道新幹線があり、両エリアの交流等が図りづらい状況です。
- ・生活道路は道幅が狭く、災害時に支障を来す可能性があり、居住地内に家庭菜園を設けることが難しい住宅が多い状況です。
- ・隣接エリアの農閑期の水田の活用方法について検討が必要です。

説明会当日資料（鳥飼まちづくりグランドデザイン）P40

【課題解決に向けた取組の方向性】

説明会当日資料（鳥飼まちづくりグランドデザイン）P41

- (1) 農業に触れ、上手に家庭菜園ができる環境を創出するため、隣接する田園エリアとの交流を促進します。

＜取組イメージ＞

- ◎誰もが移動しやすい環境づくり
- ・隣接エリアへのアクセス道の整備

- ◎地域資源を活かしたにぎわい・魅力あふれる環境づくり
- ・敷地面積の拡大化などのまちづくり誘導策の検討・実施

鳥飼まちづくりグランドデザインについて

②居住性向上エリアB 将来予想・現状と課題・課題解決に向けた取組の方向性

【将来予想】

- ・多くの住民は水害発生前に、自家用車を使って円滑に広域避難ができます。
- ・自家用車を持たない住民等は「高台」へ緊急避難し、安全を確保しています。
- ・様々な人々がつながり、支え合うコミュニティで地区防災活動が行われています。

【現状と課題】

説明会当日資料（鳥飼まちづくりグランドデザイン）P40

- ・「高台」の避難所は第五中学校の3、4階しかなく、また、地域コミュニティが弱体化しており、避難行動要支援者の避難体制に不安が残ります。

【課題解決に向けた取組の方向性】

説明会当日資料（鳥飼まちづくりグランドデザイン）P41

(2)円滑な広域避難や避難行動要支援者への支援が確実にできるようにするため、地域の防災力・減災力を高めます。

<取組イメージ>

◎自助 共助 公助(みんな)でつくる安全安心

①防災知識の普及

- ・防災出前講座、防災教育の授業
自主防災訓練の実践等

②災害の備え

- ・水害保険の導入検討等

③災害時の避難者支援

- ・避難行動要支援者の個別避難計画の作成等

鳥飼まちづくりグランドデザインについて

②居住性向上エリアB 将来予想・現状と課題・課題解決に向けた取組の方向性

P38

【将来予想】

- ・交流拠点等は複合施設として目的に応じて様々な人が集い、にぎわう空間が創出されています。
- ・多様化する生活課題の解決に向け、「地域福祉活動」が展開されています。

【現状と課題】

説明会当日資料（鳥飼まちづくりグランドデザイン）P40

- ・公共施設は、3箇所のみで、高齢者や地域の子どもの居場所や農産物の販売所などではなく、隣接エリアの「農」の資源活用方法などの検討が必要です。
- ・生活課題を解決するために、地域のつながりの場や組織の強化が必要です。

【課題解決に向けた取組の方向性】

説明会当日資料（鳥飼まちづくりグランドデザイン）P41

(3) 子ども、若者、高齢者など多様な人たちが集い、交流する場所と機会を提供し、地域コミュニティの活性化とにぎわいの創出を図ります。

＜取組イメージ＞

◎つながってみんなが活躍できる環境づくり

・NPOや事業者等との地域資源を活かした公民連携の取組検討

◎地域資源を活かしたにぎわい・魅力あふれる環境づくり

・農家・農業者との連携による家庭菜園指導等、「農」に関する取組

◎子どもや高齢者にやさしい環境づくり

・地産地消型の子ども食堂等をはじめとした居場所づくりの創出に係る支援方策の検討

等

鳥飼まちづくりグランドデザインについて

エリア全体 課題解決に向けた取組の方向性

①魅力ある教育環境

【課題解決に向けた取組の方向性】

- (1) 学校規模及び配置の適正化を図ります
- (2) 社会変化等に適応した教育の充実を図ります
- (3) 学校施設の有効活用を図ります

③地域コミュニティ活動の活性化

【課題解決に向けた取組の方向性】

- (1) 自治会・町会の活性化の促進等に努めます
- (2) 市民活動団体や事業所等による多様な活動を支援し活性化を図るとともに、担い手をコーディネートする中間支援機能の充実を図ります
- (3) 誰もが集え、つながることができる「場」の創出に努めます

⑤ICTを活用したまちの発信力の向上・コミュニケーションの強化

【課題解決に向けた取組の方向性】

- (1) ツイッターやフェイスブックなどのSNSをはじめ、ICTを活用した情報発信を強化します
- (2) ICTの活用によるプラットフォームの構築等、地域の様々な方々のコミュニケーションの場づくりを進めます

②利用しやすい公共交通

【課題解決に向けた取組の方向性】

- (1) 自動運転技術の進展や社会環境の変化、防災の観点などを踏まえた、鳥飼地域を超えて摂津市全体として持続可能な公共交通体系の構築を目指します
- (2) コンパクトで平坦な地域の特性を活かして、公共交通だけでなく自転車交通についても利用を奨励し、そのための安全で快適な自転車ネットワークの形成などインフラ整備も推進します

④魅力ある公園

【課題解決に向けた取組の方向性】

- (1) 既存公園において、多くの人が集い、にぎわい、防災機能も備えた多機能化を進めます

本日の内容

1. 鳥飼まちづくりグラウンドデザインについて
2. 前回の説明会で頂いたご意見の紹介
3. 小学校跡地活用 of 事例紹介
4. 今後の進め方等について

前回の説明会で頂いたご意見の紹介

頂いたご意見	取組みの方向性
第3セクターを立ち上げて農業を運営する	4 エリア (6) 改めて「農」の価値を見出し、魅力を発信し、都市近郊の農業としての発展における公的支援の可能性について検討します 鳥飼八町地区 地域計画
農業のイメージ戦略	
稼げる農業	
農作業への理解度、農業の大変さ、農業のイメージ向上	
「鳥飼ナスを使用した料理の考案、販売店の設置」「インターネットでの情報発信」「学校給食（地産地消）」	

前回の説明会で頂いたご意見の紹介

頂いたご意見	取組みの方向性
「サツマイモの収穫体験」「鳥飼ナスの収穫体験」「田植え、刈り入れ体験」「新栽培した植物の収穫体験」	2 Bエリア （1）農業に触れ、上手に家庭菜園ができる環境を創出するため、隣接する田園エリアとの交流を促進します 4 エリア （6）改めて「農」の価値を見出し、魅力を発信し、都市近郊の農業としての発展における公的支援の可能性について検討します

前回の説明会で頂いたご意見の紹介

頂いたご意見	取組みの方向性
子ども、子育て、放課後教育、高齢化	2Bエリア (3) 子ども、若者、高齢者など多様な人たちが集い、交流する場所と機会を提供し、地域コミュニティの活性化と賑わいの創出を図ります

前回の説明会で頂いたご意見の紹介

頂いたご意見	取組みの方向性
学校の統廃合	エリア全体 ①魅力ある教育環境
跡地にショッピングモールを！！	
ショッピングモールを作ってその中に病院や銀行を入れる	

前回の説明会で頂いたご意見の紹介

頂いたご意見	取組みの方向性
バスを増やして下さい。	エリア全体 ②利用しやすい公共交通



地域公共交通会議で検討を開始

前回の説明会で頂いたご意見の紹介

頂いたご意見	取組みの方向性
コミュニティの再結成	エリア全体 ③地域コミュニティ活動の活性化
スポーツ	

本日の内容

1. 鳥飼まちづくりグラウンドデザインについて
2. 前回の説明会で頂いたご意見の紹介
3. 小学校跡地活用の事例紹介
4. 今後の進め方等について

小学校跡地活用の事例紹介



文部科学省

廃校活用事例集

未来につなごう

みんなの廃校プロジェクト



事例-1 群馬県みどり市 旧福岡西小学校

社会教育施設として活用

みどり市多世代交流館

事例-2 千葉県鋸南町 旧保田小学校

都市交流施設・道の駅として活用

都市交流施設・道の駅保田小学校

事例-3 和歌山県海南市 旧第一中学校

スポーツセンターとして活用

海南スポーツセンター

事例-4 鹿児島県南さつま市 旧笠沙小学校

市役所出張所、診療所等の複合施設として活用

笠沙地区総合センター「よいどこい」

事例-5 新潟県長岡市 旧島田小学校

障害福祉サービス事業所として活用

和島トゥー・ル・モンド 100年の時をこえて

小学校跡地活用の事例紹介

事例-1

群馬県みどり市 旧福岡西小学校

社会教育施設として活用

みどり市多世代交流館



人口	48,194人(2024年3月1日)
建築年度	1973（昭和48）年度
活用開始年度	2019（令和元）年度
施設の規模	2,428㎡



施設の概要

多世代交流館は、市民の生涯学習、市民や子育て親子の交流等を推進することを目的として、活動室や多目的ホール、和室、調理実習室など18部屋と体育館や多目的広場を備えた施設である。子育て応援施設（子育てを支援する様々な活動をはじめ、子育て親子の交流等を促進する拠点となる施設）としての特徴ももっている。

廃校活用の効果

- ・ 既存教室を生かした多目的ホールなどで講座やサークル活動など多くの市民のコミュニティ拠点として利用者が増加している。
- ・ 校庭はスポーツや地域主導の大きな行事も行われている。
- ・ 市の指定避難場所として地域の防災拠点として活用



小学校跡地活用の事例紹介

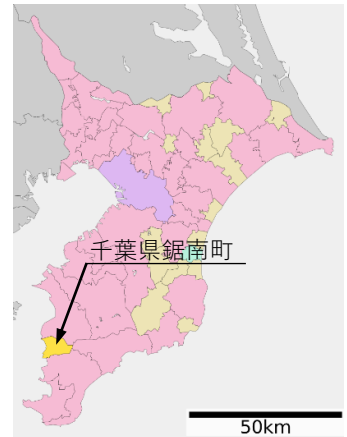
事例-2

千葉県鋸南町 旧保田小学校

都市交流施設・道の駅として活用

都市交流施設・道の駅保田小学校

人口	6,347人(2024年3月1日)
建築年度	1967（昭和42）年度
活用開始年度	2015（平成27）年度
施設の規模	14,236㎡他



施設の概要

「小学校」の名前がつく全国初の道の駅であり、校舎棟は飲食・物販施設、簡易宿泊施設、公衆トイレ等を備え、体育館は直売所として活用している。

廃校活用の効果

- ・ 2015年12月の開業から2021年度までの施設全体の累計集客数は、レジ通過者数で約160万人。
- ・ 2021年度までの施設全体の累計売り上げは約32億7千万円。
- ・ 開業から2021年度までの指定管理者及びテナントを含めた平均雇用者数は53名で、地域の新たな雇用の場としても寄与している。



小学校跡地活用の事例紹介

事例-3

かいなん し だいいちちゅうがっこう
和歌山県海南市 旧第一中学校

スポーツセンターとして活用

海南スポーツセンター

人 口	45,718人(2024年3月1日)
建築年度	1977(昭和52) 年度
活用開始年度	2015 (平成27) 年度
施設の規模	(土地) 11,997.70㎡ (建物) 1,615.50㎡



施設の概要

フットサルコート、ジュニアサッカーコート、体育館、簡易宿泊施設等が一体となった複合型のスポーツ施設として活用。スポーツ少年団や学校の部活動・サークル等のスポーツ合宿等で利用することができる。

廃校活用の効果

- ・地域のシンボルともいえる学校施設を活用することで、廃校に伴い懸念された周辺地域の活力低下を防ぐことができる。
- ・学校が地域に果たしてきた避難施設や施設の地域開放といった役割を引き継ぐとともに、既存の体育館を核として可能な限り市民が望む施設等を整備することで、市民サービスの向上や市全体の活性化等を図ることができた。

Before After



小学校跡地活用の事例紹介

事例-4 みなみ し かさ さ ちょう かさ さ しょうがっこう 鹿児島県南さつま市笠沙町 旧笠沙小学校

市役所出張所、診療所等の複合施設として活用

笠沙地区総合センター「よいどこい」

人口	30,669人(2024年3月1日)
建築年度	1974（昭和49）年度
活用開始年度	2015（平成27）年度
施設の規模	699.27㎡



施設の概要

南さつま市の公共施設である野間池診療所、医師住宅、野間池出張所、笠沙地区公民館、避難所、野間池分団消防詰所及び車庫の用途をまとめて整備した複合施設である。「よいどこい」とは鹿児島弁で「拠り所」を意味する。

廃校活用の効果

- ・診療所や出張所・地区公民館等が建設され、グラウンドも全面芝生に変わったことで、地域住民がグラウンドゴルフをしたり調理室で郷土料理を作ったりと、憩いの場所として生まれ変わった。
- ・多機能的な複合施設となったことで、地域の利用者の利便性も図られている。



小学校跡地活用の事例紹介

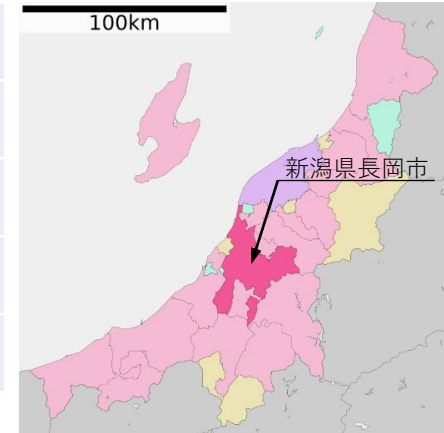
事例-5

ながおか し ま だ し ょ う が っ こ う
新潟県長岡市 旧島田小学校

障害福祉サービス事業所として活用

和島トウ・ル・モンド 100年の時をこえて

人 口	256,752人(2024年3月1日)
建築年度	1904（明治37）年度
活用開始年度	2012（平成24）年度
活用事業者名	社会福祉法人 長岡三古老人福祉会
施設の規模	2,973.68㎡



施設の概要

飲食業や農業分野における環境整備を通じて障害者の持続的な雇用の場を創出している。地産地消・安全安心のサービスで自然と共生し「ゆっくりと生きる力」を感じられる機会を提供している。

廃校活用の効果

- ・ 障害者就労支援施設として活用されることは市の目指す環境づくりに寄与するものであった。
- ・ 長年愛されてきた学校が再利用されることに対して、地域住民や卒業生等から喜びの声が多く寄せられている。
- ・ 外部からも注目を集め、観光誘客や市のプロモーションという効果をもたらしている。

Before After

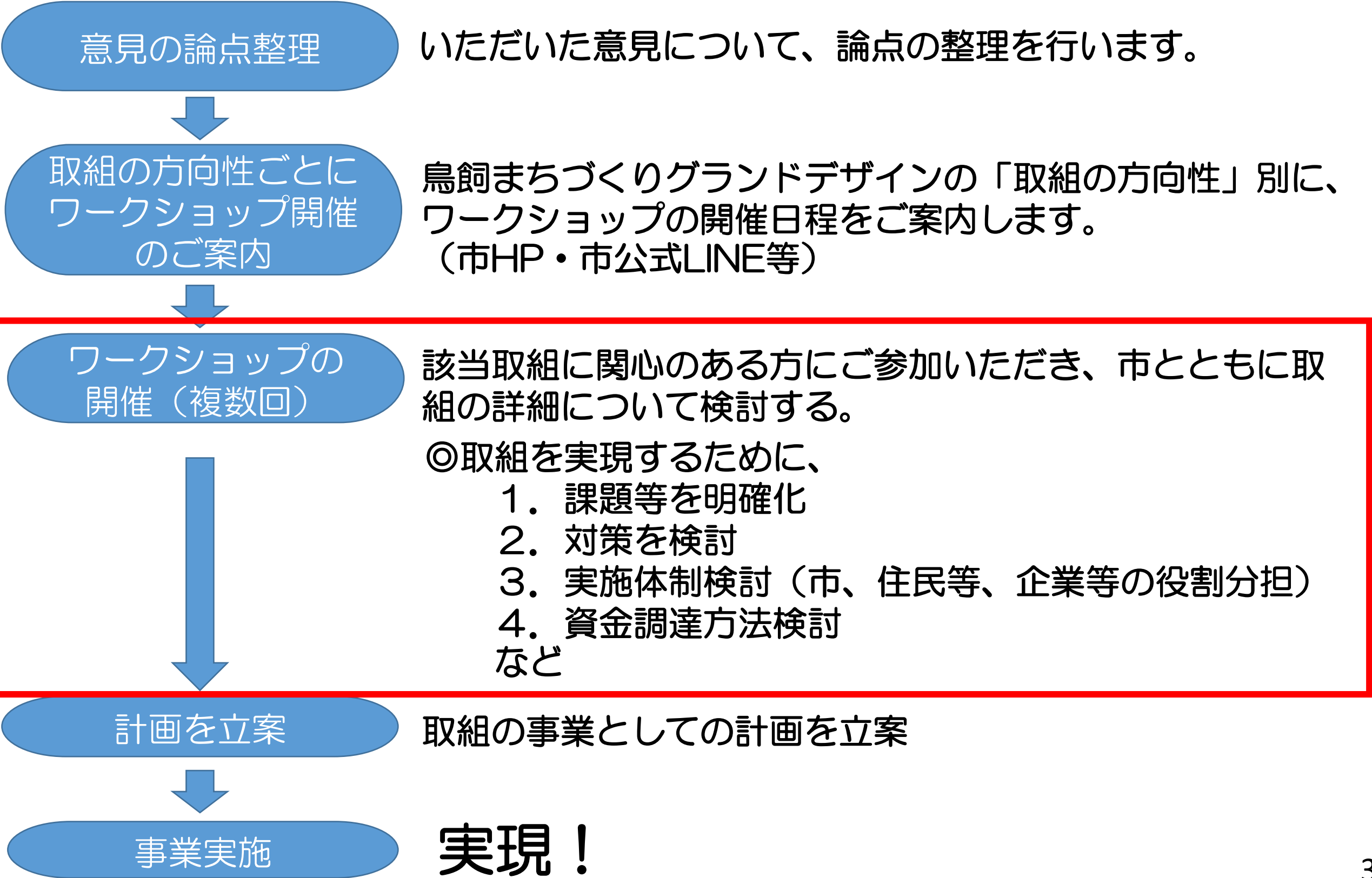


本日の内容

1. 鳥飼まちづくりグラウンドデザインについて
2. 前回の説明会で頂いたご意見の紹介
3. 小学校跡地活用 of 事例紹介
4. 今後の進め方等について

今後の進め方等について

これまで頂いた様々な意見をもとに、以下のような流れで検討を進めたいと考えています。



協働のまちづくりについて

将来予想の実現に向けた取組は、住民や地域活動団体、事業所等との協働により進めていくことを目指します。

【参考】摂津市における「3つの『きょうどう』」と「協働のまちづくり」

【3つの「きょうどう」】

「きょうどう」には3つの考え方があり、どの「きょうどう」も、まちづくりを進めるうえで欠かせない取組みの形態です。

	立場	活動	目的
共同	同	同	同
協同	異	同	同
協働	異	異	同

共同：複数の人や団体が同じ目的のために同じ立場で同じ活動を行う

協同：複数の人や団体が同じ目的のために異なる立場で同じ活動を行う

協働：複数の人や団体が同じ目的のために異なる立場で異なる活動を対等に行う

今後広げていく必要がある
“きょうどう”

【協働のまちづくりとは】

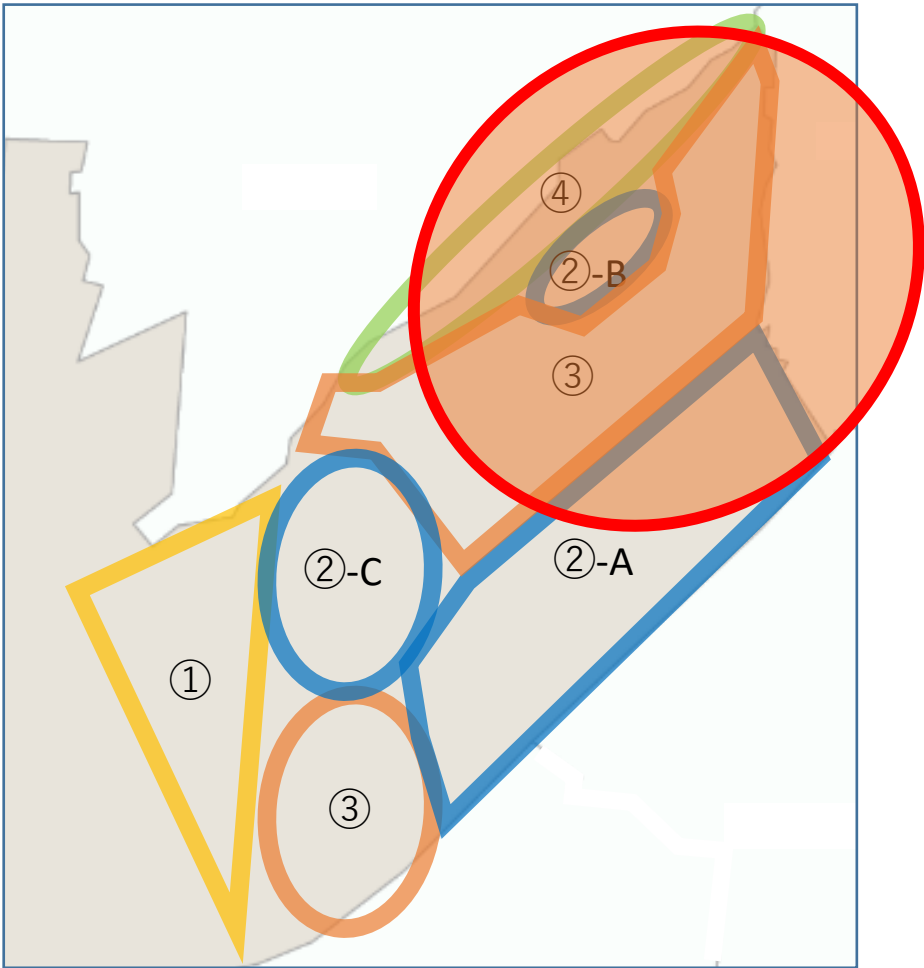
摂津のまちをより良くしていくために、それぞれが個別に取り組むよりも、多様な人や団体が持ち味を生かして連携・協力する(つながる)ことで、より多くの成果を生み出すことです。

コンパクトな摂津市の良さである“顔が見える関係性”を生かしながら、まちづくりを進めていきます。

そして、摂津市独自の取組を生み出し、まちの特色や魅力を発展させていきます。

今後の進め方等について

- 2Bエリア（居住性向上エリアB）
- 3エリア（企業と住民の共存発展エリア）
- 4エリア（田園(農業とのふれあい)エリア）



- 【2Bエリアの将来予想】
「暮らし」の中に「農」があり、円滑に広域避難ができる
- 【3エリアの将来予想】
住民と企業が共存、互いに理解し、価値を高め合うことができている
- 【4エリアの将来予想】
芸術など新たな価値を付加した「農」のある空間ができている

【2B、3、4エリアでの今後の進め方】

2回目の説明会の実施

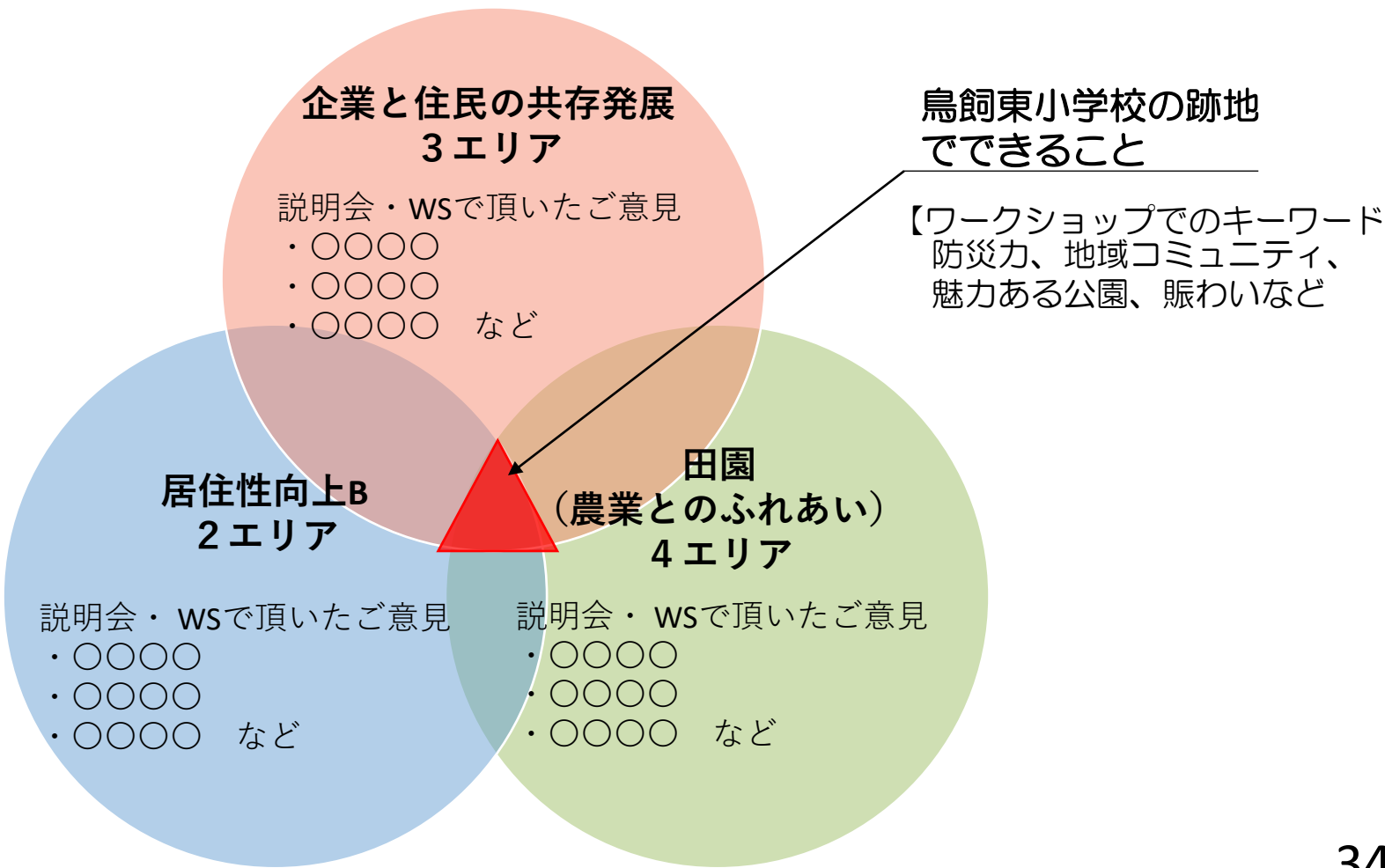
- ・2B、3、4エリアの鳥飼まちづくりグランドデザインの説明会において、将来をどのようにしていくべきか、どのような課題を解決していきたいかなどについて、住民の皆様と意見交換を行い、将来予想や取組の方向性の確認を行う。また、鳥飼東小学校跡地活用についても、意見交換をしていく。



意見整理とワークショップの開催

- ・鳥飼東小学校の校区は、エリア2A、2B、3、4と広範囲に跨るため、それぞれのエリアで将来予想の実現に向けた取組み（小学校跡地活用を含む）に関する意見交換を行う。
- ・グランドデザインのエリア全体にかかる取組みの方向性の①、魅力ある教育環境でそれぞれのエリアでいただいたご意見を踏まえて、跡地活用に関する議論を進めていく。

【鳥飼東小学校跡地活用に向けての取組みのイメージ】

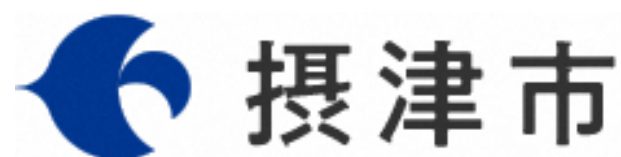


鳥飼まちづくりグラウンドデザイン説明会

田園(農業とのふれあい)エリア、居住性向上エリアB
2回目

ご参加ありがとうございました

令和6（2024）年6月16日



グラウンドデザインへのご意見はこちらから

ご意見・ご感想等何でも
お気軽に送ってください。

メールの場合はこちら↓↓

torikai-machizukuri@city.settsu.osaka.jp



Q1. このエリアでこんな将来になったらいいなと思うものに○をつけてください。

田園（農業とのふれあい）エリア

- ①多くの人が田植えや稲刈りなどの農業体験に訪れる
- ②農閑期は空いた農地を活用して文化芸術活動が展開
- ③新鮮な農作物を購入することができる
- ④観光や防災などの新たな価値が付加されている

居住性向上エリアB

- ①「農」を通じたコミュニティが形成されている
- ②「高台」にした交流拠点に緊急避難する事ができる
- ③交流拠点は複合施設となっている
- ④様々な人が集いにぎわう空間が創出されている

Q2. Q1で○を付けられた将来を実現するために必要な取組みを教えてください。

例）このエリアの賑わいのために、市内からも市外からも人が集まる場所をつくる。

Q3. Q2で答えられた取組みの実現に向けて鳥飼東小学校の跡地をどんな風に使っていききたいですか？

例）道の駅やスポーツセンターを作る。

ご意見シートにご記入いただくか、ご意見フォームへご入力ください。

☆意見募集期間

本日～7月19日（金）

FAXはこちら⇒ 06-6319-5970

☆意見シート回収場所

新鳥飼公民館・鳥飼東公民館・摂津市役所4階政策推進課分室

ご意見フォームはこちら⇒

